



# さわらび

第91号

発行元：十和田市立中央病院

発行責任者：事業管理者 松野正紀

十和田市西十二番町14番8号

TEL.0176-23-5869

FAX.0176-21-1234

<http://www.hp-chuou-towada.towada.aomori.jp/02renkei/04sawarabiNews.html>

## がん相談支援センターの紹介



どこにあるの？

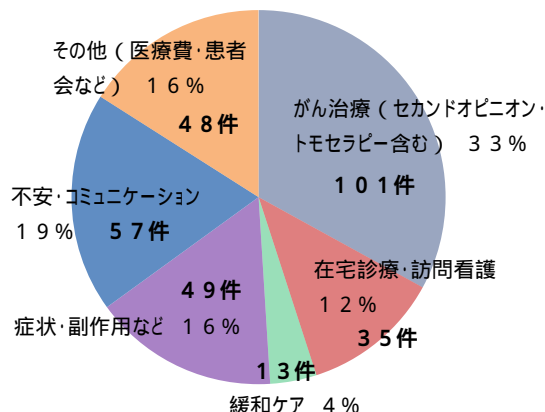
本館正面玄関横の地域医療連携室内に「がん相談支援センター」があります。以前は別館1階医療情報センター（院内図書室）の隣にありましたが、より分かりやすく相談しやすい場所としてH25年より現在の場所へ移動し、相談支援を行っています。



全国の「がん相談支援センター」共通のロゴマークです。

「がん相談支援センター」は全国のがん診療連携拠点病院に設置が義務付けられています。その病院にかかっていなくても誰でも相談できる窓口であり、当相談支援センターでも院内だけでなく院外からの相談も受けています。

【H25年度相談内容内訳(303件中)】



どんな相談を受けているの？

H25年度の相談内容としては、治療に関するものが33%、その他不安や症状・副作用に関して、医療者とのコミュニケーション、医療費のことなど様々な相談がありました。

がんと告知される前、告知後、治療前後などその時々で不安や悩みが変化し、「どうしたらいいのだろう、、、」と悩んでいる方がたくさんいます。がんになったことで起こる患者さんやご家族の様々な悩み・不安の言語化と整理を一緒に行うことで、安心・納得して療養生活が送れるよう相談対応しています。



相談員紹介

新谷明子：リニューアルされ身近な存在に。

平野 玲：相談者の力になれるよう勉強、勉強の毎日です。

他にはどんな支援活動を行っているの？

患者会への支援

院内のがん患者会「くつろぎサロン」の活動支援を積極的に行っています。

がん情報の発信

がん関連冊子やがん情報サイトによる情報提供。  
冊子は昨年、院内で3000冊配布しました。

ウィッグ相談会の開催

専門業者の協力により月1回開催しています。

ケア帽子の提供



がん医療を必要としている人が、この土地にどのように分布しているか。地域の交通網や社会資源の立地、自然環境などに照らして、生活の視点に立った医療をどう実現していくか。今回は、地理的分析を通して問題解決に寄与する技術であるGISについて紹介します。

## GISとは

GIS (Geographic Information System、地理情報システム)とは、統計データを地理空間上に展開し、加工・分析・視覚化などの手段を提供するシステムです。右の図は実際に、ある特定のがんの罹患数とその将来変化をシミュレーションしたものです。これにはさらに別の診療データや環境データなど、様々な情報を融合していくことができます。

## 図の解釈 (地点別の推定罹患数と将来変化)

この図では、500 m<sup>2</sup>の土地ごとに行った推計が示されており、シンボルの大きさが罹患数を、色が将来変化を表しています。基としたのは2010年および2020年の推計罹患数で、具体的には、2010年の値をシンボルの大きさに、2010~2020年にかけての変化率を色に反映させています。変化率は、増加に傾いているほど赤に近く、減少に傾いているほど青に近い配色としました。

本県のどの市町村も、総人口は減少傾向にあるのですが、本図では人が住む土地の大部分が黄~赤のシンボルで占められており、つまり罹患数は増加傾向を示しています。これは、高齢化の進展によってがんを発症しやすい年齢層の人口が増加しているためです。逆に、水色~青のシンボルが点在する地域では、高齢化は進展しきって、人口減少の効果がより優位に罹患数に影響していると解釈できます。

## 推計の方法は？

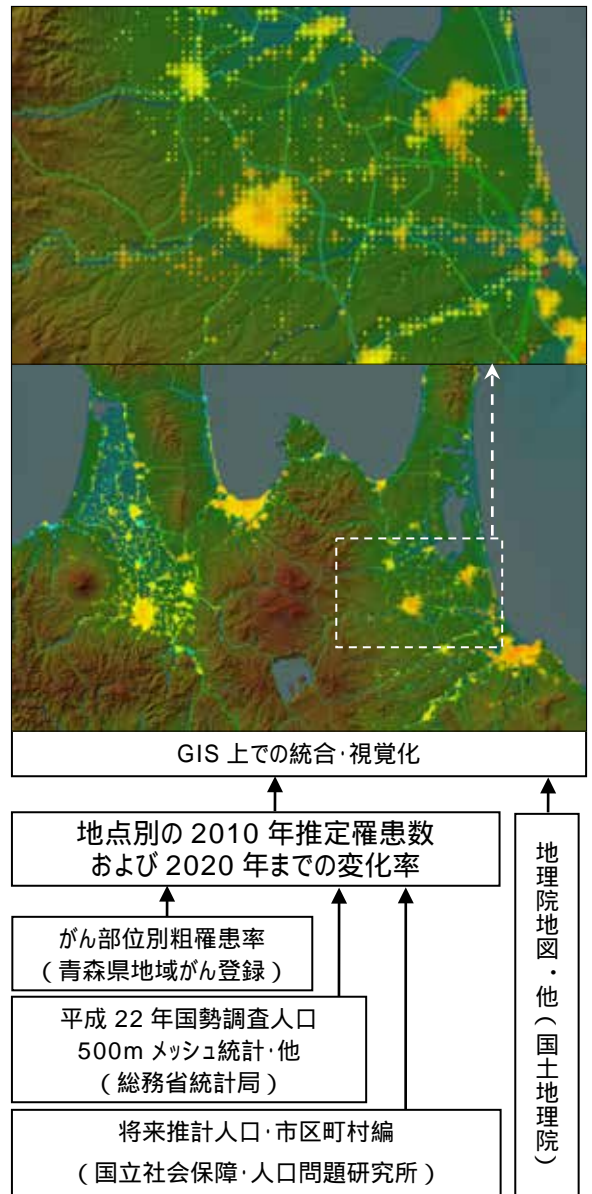
推計の方法は様々ありますが、ここでは、性・年齢階級別に層化した人口に、同様に層化した罹患リスクを対応させ、積和をとる、最もシンプルな手法を用いています。層別人口は町丁字レベルの細かいデータを引用しているものの、層別罹患リスクについては県全体の代表値を全地点に適用しており、この点はやや大味と言わざるを得ません。罹患リスクは、県内でも地域によって若干の相違がある可能性があり、より精確な濃淡の再現を目指す場合は、個票レベルのデータの利用を検討することになるでしょう(これには申請が必要になります)。また世代交代によるリスク変動も加味したいところですが、それには精度の高い長期の罹患データが必要で、本県の場合これは得られません。

とはいえ、このように一般に公開されているデータのみから、簡単なシミュレーションが速やかにでき、大局をつかめるのは価値あることと言えるでしょう。これが可能となってきたのはごく最近のことです。地域がん登録の精度が向上し「使える」データになってきたこと、国土交通省・総務省など関係省庁によって位置情報付きデータの整備が進んだこと、一般向けのパソコンの性能がGISを稼働できるまでに向上してきたことなど、様々な条件がそろって初めて見えてきた土地の像と言えます。

## 風土情報をもつ豊かさ

ところで、実用性への展望は一時忘れて、素朴に地図を眺めると、また別の感慨も湧いてこないでしょうか。がんにかかるリスクは誰にでもあり、シンボルがある場所は、つまり人が住んでいる場所です。その場所ごとに固有の風景、音、薫りがあり、そこに暮らす人の内に育っていく土地への「愛着」や「懐かしさ」といった情緒は、人格の一部とも言えるでしょう。長期入院を余儀なくされている人が「家に帰りたい」と言うとき、まさしくそれを取り戻そうとしているのだと解されます。

一度は個性が取り去られた統計値も、あるべき場所に置かれ、風土のイメージと結びつくと、生き生きとした意味が再び注ぎ込まれるような感があります。多分に主観的な見方もかもしれませんが、それもまたGISの重要な特性に思えてなりません。





## 外来診療担当医表

外来診療担当医表は随時更新しております。下記のURLからのご確認をお願いします。

<http://www.hp-chuou-towada.towada.aomori.jp/03sinryo/03gairaiDoctorList.html>



## 同行訪問看護のお知らせ

### 同行訪問看護とは・・・

2012年の診療報酬改定において、「在宅患者訪問看護・指導料」が新設されています。これは、在宅で療養を行っている悪性腫瘍の鎮痛療法若しくは化学療法を行っている患者又は真皮を越える褥瘡の状態にある患者に対し、医療機関等の専門性の高い看護師と訪問看護ステーションの看護師が共同して同一日に看護又は療養上必要な指導を行った場合に、それぞれ月1回を限度として算定されるものです。

専門性の高い看護師とは、5年以上、褥瘡ケア又は緩和ケアの看護に従事した経験を有し、それぞれ6ヵ月以上の適切な専門の研修を修了した皮膚・排泄ケア認定看護師と緩和ケア認定看護師を指します。

急性期病院の在院日数の短縮や在宅医療への移行、2025年問題である高齢社会に向けて、緩和ケアを含むがん医療や日常生活に関わる褥瘡ケアに対するニーズは今後益々増大していくことが予測されます。当院はこれまで、地域の訪問看護ステーションからの相談を受け、アドバイスや支援を行ってきましたが、当院に通院されている患者様に限られていました。今回、当院以外の主治医の場合でも、訪問看護師と同行し患者宅に出向き、療養上の留意点やケアのポイントについて専門的なアドバイスが行えるようになりました。

診療報酬上の対象は限られていますが、専門ケアの認定看護師のノウハウを院内だけでなく、地域でも活用しただけであればと考えますので、まずご相談をいただければと思います。今後もネットワーク等で顔の見える関係を作り、地域との連携を深めてまいりたいと思いますので、どうぞ、よろしくお願いいたします。

### 褥瘡（床ずれ）ケア

担当：皮膚・排泄ケア認定看護師 木村 英子

赤色の創面の浅い潰瘍や水疱の状態から深い潰瘍の褥瘡の方に対して、褥瘡の発生原因を探り、原因を除去または軽減することで褥瘡の改善や悪化を防ぐケアを行います。また、予防ケアとしてのスキンケアや除圧ケアの方法、褥瘡の処置の仕方や原因となる失禁ケアを行います。患者様やご家族様の生活に沿ったケアを考えていきたいと思っておりますので、どうぞご活用ください。また、褥瘡がない場合でもご相談に応じますので、ご連絡ください。

### 緩和ケア

担当：緩和ケア認定看護師 太田 緑

がん領域における同行訪問は、対象者が在宅で悪性腫瘍の鎮痛療法(注射による鎮痛注入)もしくは化学療法(注射による抗悪性腫瘍剤の注入)をおこなっている患者に対してと限定されています。そのため、全国や全県でも、中々活用されていない現状があります。その他の理由として、「主治医で対応可能」、「患者家族で対応可能」、「利用方法や相談窓口がわからない」ことなどが、学会で報告されています。

対象に該当しない場合でも、からだやこころのつらさを和らげ、患者家族のニーズに応えるためのケアについてサポートいたしますので、ご相談ください。



# お知らせ

## 十和田市立中央病院「連携の集い」の開催報告

平成 26 年 9 月 20 日（土）、富士屋グランドホールにて、「連携の集い」を開催しました。当院職員との直接交流の場を作る目的で始められた「連携の集い」は、今年度で 2 回目の開催となります。当日はお忙しい中、登録医の先生方をはじめ、連携施設から多数お集まりいただき、誠にありがとうございました。



## 「市民公開講座」のご案内

【日 時】平成 26 年 10 月 18 日（土）開場 13：30～、開演 14：00～

【テ - マ】講座：「脳卒中予防の 1 次予防について(仮)」(14：00～14：40)

講 師：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 内科副部長 齋藤 新 先生

講座：「脳卒中にならないために・・・」(14：40～15：20)

講 師：十和田市立中央病院 脳神経外科 診療部長 善積 威 先生

【場 所】十和田市立中央病院 さわらび会館

【募集人員】先着 200 名 当日受付、事前申込不要

## 「病院ふれあいまつり」のご案内

【日 時】平成 26 年 10 月 26 日（日）

【内 容】市民公開講座のほか、医療に関する体験、  
相談や各種イベントの実施など

詳しくは当院ホームページをご覧ください。

<http://www.hp-chuou-towada.towada.aomori.jp/index.html>



## 地域医療連携室よりお知らせ

平成 26 年度から、地域医療連携室の室長が丹野弘晃（院長）から田澤浩司（副院長）に変わりました。今後ともよろしく願いたします。

今月のアート

「秋の収穫です。」

画 畑中 光昭